

未来貢献学 2020-III [GLI Behavior]

2020年03月28日
未来貢献塾 GLI

未来貢献学III[GLI Behavior]の目的

あらゆる世界の事象や学問を古今東西・他分野横断的に観察し、「草の根レベルの生き方改革」を実践するための、より良い具体的な行動基準や有益な振る舞い方を提案するものである。そして、これは、随時アップデートされ得る可変的なものであり、誰かに思想・行動を強要・強制するものではない。

【Section 1: 思考管理】

1 Flexible and Resilient-Mindset

「柔軟に変化に適応し立ち上がり続ける自分」を“初期設定”にする。

2 Future will be Better

「未来は良くなる」前提で行動する。

3 Coordinated Existence by Characteristic Variety

常に外界の変化に応じて“多様な人格”を発現している人間(自己も他者も)の統合的存在価値を意識する。

4 Be with Fictional View

人類史実における“虚構観”を常に念頭に置いてモノゴトに対峙する。

5 Best Now to Better Future with Learning Past

未来に貢献するという思考～過去に学びより良き未来を見据えた最善の今を生きる～という思考の癖を持つ。

6 No Accusation and Focus on just Matter

何か“問題”と向き合う時は、決してヒトを責めず、コトの改善を志向する。

7 Logical-Thinking, Strategic Planning, Technical-Solving and Emotional Behaving; LSTE

論理的に思考し、戦略的に計画を立て、技術的解決を駆使し、人情あふれる振舞いに徹する。

8 To the Better End

「終わり方の大切さ」を尊重し、“終わり”に向けて上り調子になるような行動・マネジメントに徹する。

9 Make it Chance now

目の前にある機会を“好機にしてしまう心構え”が“実質的な好機”を創り出す。

10 Focus on Something what you have

ないものを注視するのではなく、あるものを注視する。

11 One Day, One Growth

1日一つの実感可能な成長を生み出す習慣を創る。

12 Focus on Mega-Trend

歴史を踏まえた世界や社会の流れといった「大きな流れ」には常に敏感であるようにする。

13 View Big Picture

自身の世界観を広げ続け、俯瞰した全体観を常に意識する。

14 Next Generation-Oriented

未来を生きる次世代を慮る。

15 Respect Stories

歴史・文化・宗教等の連綿と続く人類が生み出してきた“ストーリー”に対して尊大な敬意を払う。

16 Greater Purpose

利己を超えた利己を内包した利他的行動に自己目的を統合する。

17 Self Reliance, Determination and Behavior

自分の人生に責任を負い引き受ける覚悟を持ち、自己依拠・自決振舞に徹する。

18 Multiple Value

希少性の掛け算戦略で「オリジナルの価値創り」「未来への価値創り」をカタチにする。

20 Habit of Beneficial Combining

結びつけ癖～あらゆるモノゴトを有益な学びとして過去から未来へ繋げる癖～をつける。

21 Keep Motivation-First

やりたいこと→今しかできないこと→出来ること→やらなければならないこと、の優先順位で高いモチベーションで行動出来る環境づくりに励む。

22 Multi Standard [Purpose:目的, Value:価値基準, Goal:到達指標]

目的、価値基準、到達指標を常に複数持つ。

23 Growth First not Success : 成長ファースト

成功より成長に常に重きを置く。

24 Think of Probability and Possibility

未来の可能性と確率を考えて、リスク軽減と転換を含む価値増幅を企図する。

25 Don't expect Perfection

完璧な状態やヒト・コト・モノ・トキは求めない。

26 Not Believing but learning

何かや誰かに信仰依存せず、絶えずあらゆる学びを取り入れる心づもりと姿勢を持つ。

27 Betterment with Best [BwB]

より良きを探求し、最善を尽くす。

28 Leave bias behind

無意識に発動するあらゆるバイアスを取り除く意識を持ち続ける。

29 Internal Driven

内的な、内から湧き上がる動機やエネルギー発揮を優先する。

30 Active Ambivalence

両義的な見識感覚を積極的に需要する

31 Positive Loss

何かを得るために積極的な初期投資・喪失を厭わずに挑戦する。

32 Keeping Alternative Time [KAT]

余白時間を意識的に作る。

33 W・W・H

Why (Purpose 目的) →What (Content 内容) →How (Technique 方法) の順で常にその価値を思考する。

34 Think by & for

向かう先と駆動する元を常に意識する。

35 No Correction and Justice

捉われやすく多様性を内包する“正しさ”や“正義”の追求をしない。

36 Don't be in the past

過去に執着したり依存しない。

37 Recommend Individual Standard

個々の基準の存在を認知し敬う。

38 All the Better for Whole

全体に利するコトを追求する。(利全心)

39 View for Complexity

多面的、両義的、包括的に複雑系を考察し受け入れる。

40 Focusing on Growth of Strength.

強みを伸ばすことに集中する。

41 Think Priority

常に優先順位を考え、最上位へ立ち返る癖を創る。

42 Create Sustainable Growth

持続可能な“伸びてる観”を意識的に創造する。

43 Leverage Values to Future

常に未来価値を高めるように過去に学び今を賭ける。

【Section 2: 行動管理】

1 Intentional Change

自ら変化に身を置くことを厭わず、意識的に自身の考え方・行動を変化させる。

2 Now-Focused Reaction

行動する時には、何かの行動で“意識の居場所”を認知し、「今・ここ・この瞬間」に注視する。

3 Critical Observation

世界・人間・自身に対して常に俯瞰視・客観視して、モノゴトの本質に迫ろうとする。

4 Technology-Familiar

科学技術の進展を積極的に受け入れ、積極的に有効活用する。

5 Update Better Stories

過去の“ストーリー”に敬意を払うとともに、未来に向けて新たな高次の“ストーリー”を創造・更新する。

6 Better than Today

1日1つのどんな小さな小さな進歩でさえも具体的なカタチにして積み上げる。

7 Stimulus in Life

意識的に生活の中に刺激を創る。

8 Give Contributions

未来貢献学2020

MIRAIKOKENGAKU2020



未来価値を増幅する、全体に利する“貢献のバラまき”行動に徹する。

9 by Future-Oriented Analysis

未来志向的分析～より良い未来に貢献する前提で分析する～を繰り返す。

10 by Future-Oriented Positioning [FOP]

未来に貢献するという前提で立ち居振る舞う。

11 for Future-Oriented Betterment[未来貢献学的探求]

より良きを探求するために、現実を観察し、直観的な仮説を立て、多面的に検証し、日々に活かすことに最善を尽くす。

12 Planned Impromptu

計画的即興力～即興的対応を前提とした余白のある計画策定をし時事最適に適応し続ける～で行動する。

13 Collective and Autonomy

集団的個律性～集団的最適解を優先出来る自律した個になる～で行動する。

14 Labeling Value

価値付け～モノゴトに選択的に未来に繋がる価値付けをする～の癖をつける。

15 Fast-Decision and Fast-Action

速決速動～迅速な意思決定と行動のサイクルの量を担保しながら最適解に寄せていく～の癖をつける。

16 SCE Principle : 出来ること3原則

出来ることを始めよう: Start→出来ることを続けよ: Continue→出来ることを広げよ: Expand

17 Word-Change for Mind -Change

日常使用する言葉を転換することによる思考の変化を効果的に実践する

18 Express yourself

強要・強制することなく、自己を表現すること自体は必要なことである。

19 Gray Keeping

常に意識的に余白を保持する。

20 Find Essence from Context

文脈解釈とそこからの本質察知に全力を傾ける。

21 3 way habit: 3 Strategy and Tactics

あらゆる可能性を排除しない目安として、“3案3択”の可能性を考慮する“3通りの癖”をつける。

22 Continuous Metabolism

意識的に心身のインプット&アウトプットによる継続的な代謝を行う。

23 Focus on Controllable

コントロール可能なコトに注視する。

24 Renew Connection by Intentional Farewell and Encounter

意識的に別れと出会いの機会を創ることで、つながりの新規性を生み価値創造を起こす。

25 Keep each Best Distance

時事最適かつ個別最適な距離感を確保する。

26 Joy of Learning, Joy of Growth.

学ぶ喜び、成長する喜びを味わい続ける。

27 White Integrity

白か黒の二極化の進展に合わせて、潔白的行動に注視する。

28 Choice for your time

限られた自己の時間を選別し、コトを為すための時間を過ごす。

29 Make a Bridge

コトとコトの間に新たな価値を見出しポジションを取る。

30 Dialogue not Discussion

精度の高い見解を醸成するために議論ではなく対話を重ねる。

31 Put into Habit.

未来の成長を具現化する行動は習慣に落とし込み、継続する環境を作ってしまう。

【Section 3: 環境管理】

1 Optimize Time-Management

物理的時間と意志的時間を区別し、限られた時間の使い方を最適化する。

2 Character Diffuse by Community Diffuse

オンライン・オフライン問わずあらゆるコミュニティに分散的に属し、自分の“人格”も積極的に分散する。

3 Anything as a Function[AaaF]

社会を構成する手段や機能である“何か”を最上位目的的に語るのではなく、常に社会や子どもの未来を見据えた社会の要請に基づく“機能”として見続ける。

4 3 Context Principle[Analysis, Interpretation, Creation]

あらゆる個人・組織に対する文脈重視の姿勢を持ち、「文脈の分析」・「文脈の解釈」・「文脈の創造」に努める。

5 View Globally, Be Locally

大局観で世界を俯瞰し、目の前の世界から働きかける。

6 Select to accept or intervene

受容と介入の選択によって、他者との関係を意識的に構築する。